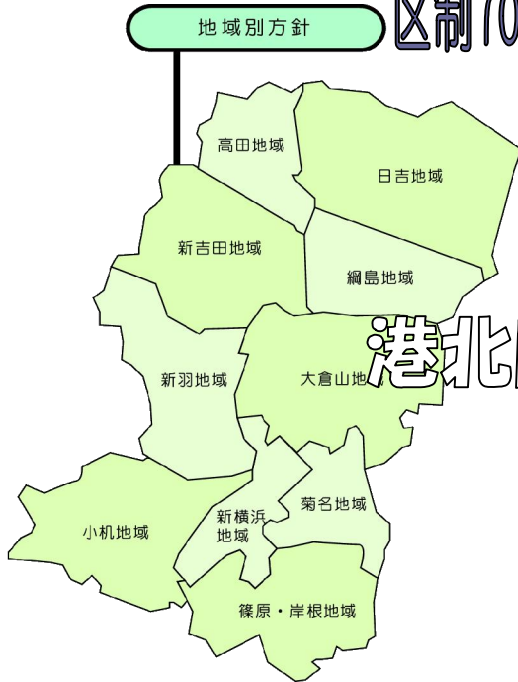
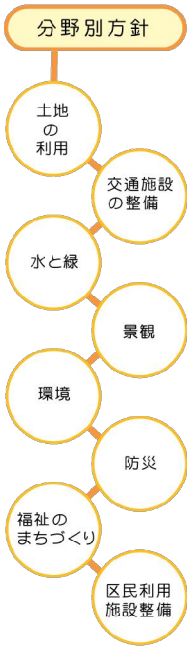


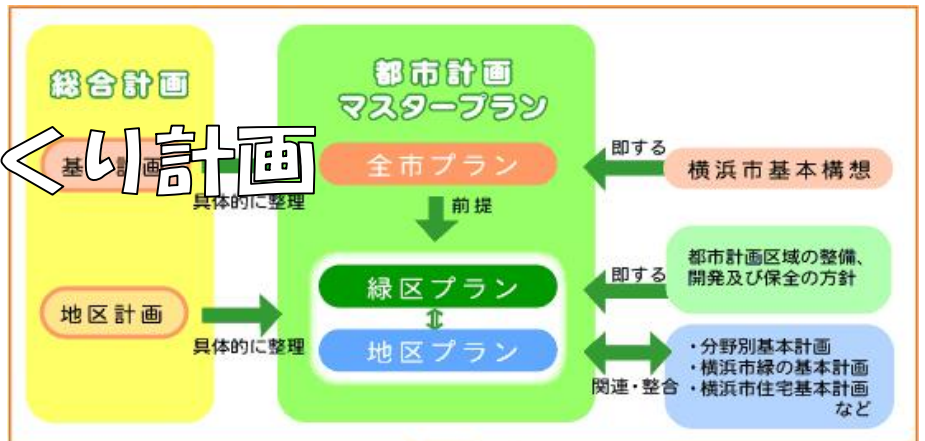
区民会議北部3区交流会

区制70・40・15を契機に10年後を語ろう!



港北区まちづくり方針

緑区まちづくり計画



具体的なまちづくりへ

横浜市都市計画マスタープラン青葉区プラン
『青葉区まちづくり指針』



青葉区まちづくり指針

第8回/北部3区交流会報告書

テーマ：区制70・40・15を契機に10年後を語ろう！！

日 時：平成20年5月24日（土）13：30～16：30

会 場：横浜市港北区公会堂2階第1～2会議室

参加者：港北まちづくり区民の会 29名
 緑区民会議 15名
 青葉区民会議 17名

プログラム

開会あいさつ	・・・	1p
第一部 全体会 <各区のまちづくり計画をもとに10年後のまちを考える>	・・・	2p
港北区発表者：桜井 悦子		
緑区発表者：竹内 秀憲・中島 光明		
青葉区発表者：中谷 英世		
第二部 分科会	・・・	14p
第一分科会		
第二分科会		
第三部 全体会 まとめ報告	・・・	20p
第一分科会報告		
第二分科会報告		
閉会あいさつ	・・・	21p

○開 会

司会進行 福留 正子

代表挨拶：

◆港北まちづくり区民の会 会長 白井 保（当番幹事）

多くの方にご参加を頂き有り難うございます。今回で8回目の交流会となります。

実行委員会でテーマを決め、今回は都市マスタープランを取り上げることにしました。

青葉区が15周年、緑区が40周年、港北区が70周年とそれぞれ記念の区制を迎えます。これを契機にそれぞれ区プランが策定されたものを検証しようと思います。

それぞれ数年がたっており今これをテーマに話し合おうということとなりました。

しっかりと話し合って成果のある交流会となることを願い挨拶にかえさせていただきます。

◆緑区民会議 代表委員 松崎 一成

17期区民会議代表は盛ですが、健康を崩しましたので、代わり今月より交替をした松崎です。まちづくりの視点から今回は交流をもつこととなりました。緑区民会議は区民会議内だけの議論でなく区民や他の区を巻き込んだ活動をひろげ、その中から提言を出していけるような区民会議を目

指しています。

活動状況に関しては緑区のまちづくり計画や緑区民会議ニュースを提供していますのでご参考にしてください。交流会の中でも質問をお願いします。港北区や青葉区との意見交換などを行い、有意義な交流会を期待します。

◆青葉区民会議

代表委員 小池 由美

青葉区は二番目に若い区と言われてきましたが、どういう訳か最近長寿日本一と言われ、びっくりしています。若い区だと言われていたのに長寿日本一ですから。区役所に連日問い合わせがあるようですが、理由が分からないそうです。

平成19年度青葉区民意調査によると青葉区には生まれた時から住んでいる人は7%しかいないのです。横浜のほかの区からの人を入れても22%しかいません。残りは市外からの人です。特に東京23区から来た人は25%を超えています。持ち家は7割を超えます。沢山の人が流入してくる区です。定住化が進んでいます。高齢化は一挙に進むでしょう。横浜市の有料老人ホームの4分の1以上が青葉区にあります。なぜそんなに青葉区に来るのかというと、意識調査からわかりますが、青葉区は緑と自然が豊かな町並みが保全されたところだからのようです。定住意識が高く一戸建てを買って住む。そういう区民が増えています。「こういう区になりたい」—そういうことが総て区プランに書かれているのです。

区プランができて5年を経過し本当にそんなふうになっているのでしょうか？ 皆さんとそのあたりを考えてみたいと思います。区プランって大事だなと。こういうことを区民会議で考えられたらと。区民会議の活動に繋げながら市や区に提言できる区民会議になって欲しいと思います。

今日の集まりが、そのようなことを考えられる交流会にしてはと（実行委員会では）計画をしました。（昔は一つであった）広い港北区が今分かれてどうなったのか考えてみたいと思います。有意義な意見交換を望んでいます。

○第一部全体会 <各区のまちづくり計画をもとに10年後のまちを考える>

港北区発表者：桜井 悦子

緑区発表者：竹内 秀憲 中島 光明

青葉区発表者：中谷 英世

◆平成12年1月の港北区まちづくり方針の検証

桜井悦子(悦計画室)

（桜井）皆様こんにちは。どうぞよろしく願いいたします。

私自身はまちづくりのコンサルタントをしております、10年前から横浜市を中心にまちづくりにかかわっています。港北区の都市マスタープランができたときに、10地区で地域懇談会を沢山開くということで助っ人として駆り出されました。

サポーターとして専門家が3名いましたが、その中の1人として地域懇談会に幾つかかかわった経緯がありますので、発表をさせていただきます。

お手元の一番上に「港北区都市マスタープラン（平成11年度）から現在までの変化」という紙がありまして、ホッチキスで留めてある資料がございます。

その後「港北区まちづくり方針」がとじられていますので参照してください。

港北区は、モデルとして横浜市の区レベルの都市マスタープランの先陣を切って作られたものだから、当時の担当者はどのようにして作ろうかいろいろと検討をしました。 幾つか特徴的なことがあるかと思いますが、1つは、この綴じられている資料の表紙の右側にもありま

す。画面に出っていますが、流れが書いてあります。10地域に分けて、それぞれ2回ずつ懇談会を開きました。そこでかなり自由な意見を出し合って、区民の意見を反映しようということにしております。

都市マスタープランの特徴は、法律に「住民参加で作ること」ということが位置づけられている計画で、それが非常に画期的なことでした。その住民参加をどのようにしようかということで、かなりきめ細かなことをしました。そのときの地域区分図があります。これが実は当初は違ってまして、地区連合会単位だったのです。そうすると、例えば新横浜の北部と南部が違う地区に入っていて、南部地区の人たちは篠原地区に出てくるべきだったのですが、自分がどの地区に属しているか分からなくてなかなか出てこないというような問題がありました。そこで港北区の生活圈は、やはり駅を中心に考えるべきではないかということで、懇談会を2回実施した後に、駅を中心とした地域区分に作り直した経緯があります。

港北区でいろいろと考えたことの1つが、区がつくる計画のあり方です。都市計画マスタープランは、都市計画道路、市全体の骨格を作っている大きな道路、あるいは土地利用など、町のハードの空間を決める計画です。そうしますと、どうしても横浜市全体の計画や、或いは都市計画では県レベルで整備、開発、保全の方針というのが作られているのですが、そういった上位計画で、かなりの部分が決められてしまっています。それを区レベルで再度、住民参加で何を決めるのだろうということをいろいろと考えた結果、港北区のずっと南の方に横浜市の都心があって、港北区は横浜市の郊外になるわけですが、そのような横浜市の一部としての位置づけではなくて、区を中心に、区を一体的な空間として考えたときに、どのようにとらえ直すべきかということを一生懸命に考えたということです。

その一例として道路の計画があります。ここに太い点線がありますが、これは環状道路としてとらえ直したものです。港北区にとっては、区内の交通を循環させるために、この環状道路は非常に重要であるというようなとらえ直しをして、それを区のマスタープランに位置づけた。このようなことに代表されるように区として上位計画をとらえ直すということをしました。

それから、市全体の骨格ではなくて、もう少し細かい地区レベルで、例えばそれぞれの地区の中で何ができるかを考えて、そこで住民ができること、区が支援できること、そのようなことを考えてきたということです。例えば重点地区を幾つか決めました。ここには載っていませんね。都市マスタープランの実現方策というのを最後に検討したのですが、例えば新羽地区とか、地下鉄の新しい駅ができる高田地区とか、幾つかの地区を重要な所としてとりあげ、そこはこのような視点で更に詳細な計画を作るべきだということを位置づけることをしました。そのようなことが特徴かと思えます。

コピーしてある1枚目の裏側に「交通施設整備方針図」というのがありまして、そこにいろいろと位置づけられているものの中から、現在何ができているかということ、1枚目では箇条書きで挙げています。鉄道、道路、それから面整備といったもの。計画に沿って着々とできています。ただ面整備に関しては幾つか課題があって、新横浜駅南部地区が白紙に戻された、或いは綱島駅は重要な再開発地区ですがこれが進んでいないなど幾つか問題があります。それからこのマスタープランができた後の状況変化がいろいろとあります。地域福祉保健計画が策定された、小学校の生徒が増えてきた、ショッピングセンターができたなどいろいろな状況変化がありますので、この計画自体は結構着々とできていますが、その変化を踏まえて、またさらに見直しを行い、次のマスタープランを作っていく必要があるのではないかと考えています。

大分時間が過ぎました。とりあえずこの辺で報告を終わります。(拍手)

(竹内) ご存じのように緑区は、40年前に港北区から分かれたわけです。これは皆さんご存じだと思います。港北区は本家、緑区は分家という感じです。分かれたというか、放り出されたのかどちらか分かりませんが、そのような感じです。また15年前、緑区は、今度は青葉区、都筑区、緑区の3つに分かれました。どちらかと言いますと、緑区は長男かもしれませんが、田舎の農家に残った長男のような感じです。青葉区、都筑区は都会に出ていかれて、非常に新しい考え方を持っている。これは卑下しすぎているかもしれませんが、そのような感じがあります。ですから緑区は田舎に残った農家の跡継ぎのような。極端に言いますとね。

今日はこのようなものをお配りしておりますが、これには3本の柱が立っております、緑は緑区の資産ですが、緑と水のまちづくり、これが1本。駅周辺のまちづくり。それから生活環境のまちづくり。このように大体分かれて考えます。特に緑と水のまちづくりを非常に取り上げまして、今でも継続しています。

それから、緑区はJR横浜線に沿いまして、北から長津田駅、十日市場駅、中山駅、鴨居駅の4駅の周辺からできているわけです。当初、横浜線ができたときは、長津田駅と中山駅だったらしいのですが、あと鴨居駅と十日市場駅が加わって、4駅になっています。それぞれに歴史的な由来も違いまして、まちづくりの考え方が多少違うということで、駅ごとに分かれて書いてあります。駅ごとの検証をしたら分かりやすいかと思っておりますので、駅ごとに説明があります。

鴨居駅の方から説明していきますと、1駅ごとに2つずつポイントを取りました。ご存じのように大型ショッピングセンター「ららポート」。これは本当は緑区にないのです。都筑区。ところがこの川を超えて行くにつきまして……。鴨池大橋、これは車専用の道路です。人専用の橋もかなり広いものがかけられまして、安全で便利になりました。そして2つ目。東本郷地区は、鴨居駅周辺の中の1つの地区で、緑区のまちづくりを忠実に受けまして住民参加でまちづくりを現在までずっと続けているわけです。住民参加によってどのようなまちづくりができるのかという可能性と限界を考えるには良い事例であると思っております。これは後で、実際に参加された中島さんから詳しくご説明いたします。

それから中山駅。中山駅は、ご存じの市営地下鉄グリーンラインが開通いたしました。これは今年の3月に開通しましたが、実は緑区については、中山駅1駅です。そこから青葉区、都筑区、港北区につながっているわけです。ということで、北部4区。ただ、残念ながら都筑区は区民会議をお持ちになっていないので今回は参加されておられません、この北部4区がつながっています。これも画期的なことだと思います。今後の展望が大いに期待されます。それからこの計画にもありますが、中山小学校が移転いたしまして、その跡地がしばらく空いていたわけです。そこをどのように使うかが課題でした。これは既に2年か3年になりますが、保育園と市民活動支援センターを作りました。市民活動支援センターに登録している団体が180件を超えているわけです。昨日電話して聞いたら、今、申請中を入れて182~183件だそうです。

次は、十日市場です。十日市場は新しい駅です。横の所に括弧して緑区プランの何ページに当たるかがありますから、それと合わせてご覧ください。市道山下・長津田線があります。この南側を通っている道路です。これが長い間の懸案でした。立ち退きの問題などがあり、随分時間が掛かりましたが、一部4車線が開通いたしまして、快適な道路になりました。ただし、こちらの北の方で、長津田から南の方に下がりまして、鴨居の手前までしか現在はできていません。その後はまだできていないというところです。それから、十日市場のヒルタウン。これは元の市営住宅です。少し言葉は悪いですが、ここはお化け屋敷のような感じでした。それが綺麗になりまして、中・高層の快適な住宅地が変わっています。

それから、長津田駅。長津田駅は古い住宅地ですから、計画どおりになかなか進まなかったわけです。北部の方には、区民文化センターが4～5年先に完成する予定です。これは横浜市の建築計画で既に設計プランもできまして、今、市民との間で広聴会というのでしょうか、協議が進められています。南部の方も古い住宅がありまして、立ち退き問題などがあり、なかなか拡幅ができませんでした。現在は立ち退きをした後の電柱の移転というかなり大きな工事をしているという状況です。この辺には、歴史的な遺産が結構あります。大林寺という、長津田の領主のお墓がある所です。話では10何億とかかったらしいですが、きれいなお寺に立派に生まれかわりました。一度、ご覧いただければと思います。

これは、検証と言いましても、どちらかと言いますと、ハード系の話ばかりです。ハード系の話と言いますと、やはり予算が伴いますから、我々区民会議ではなかなか主導権は取れないということで、本当の区民会議で取り組めるのは、ソフト面ではないかと。これは私の勝手な考え、思い込みですが、その方向に軸足を移していくべきではないかと思っております。例えば、安全・安心のまちづくり。これは従来からしているわけです。次の環境問題……。すみません、だいぶんと時間がオーバーしています。この辺で終わります（笑）。（拍手）。

（中島） 時間が押して申し訳ございません。緑区の中島と申します。私は東本郷に住んでいるものですから、東本郷がしているまちづくりプランの内容を少し説明してほしいということで、出てまいりました。

ご存じのように、まちづくりプランというのは、もともと都市計画法に基づくプランで、横浜市の都市計画プランがあり、それに基づいて、今、発表いただいていますように、18区それぞれまちづくり計画があります。それを受けた形になるのですが、東本郷にまちづくりプランが策定され、現在、アクションプラン、実行計画段階に移っているわけです。

このまちづくりプランというのはモデル事業という性格のものですが、現在実施されているのはこの5つです。戸塚区の舞岡、それから踊場。それから保土ヶ谷駅周辺地区プランは平成12年。この3つが平成12年に決定されました。それから5年後になるのですが、4つ目、金沢文庫駅東側区心部、一帯地域・地区プランが平成17年2月。そして5番目が、東本郷地区まちづくりプラン。これが平成17年7月に策定されたわけです。

東本郷地区の特徴は、緑区の中の一番港北区寄り。ここが都筑区、青葉区。このようになっています。この一番港北区寄りの地区で、緑区は連合単位と言いますと11あるのですが、その1つが東本郷地区。特色といたしましては、面積が緑区全体の約5%弱、世帯数で8%程度、人口も8%というような地区です。ここが横浜市の中でのまちづくりのモデル地区の1つになったという特徴は、この部分、この南側の丘陵地は、昭和40年代から開発された戸建住宅地が広がっているのが大きな特徴です。今から40年前に、大きな戸建住宅の土地開発がされた。これが横浜線ですが、この辺りが北側の鶴見川沿い低地で、農業専用地。これが農業専用地です。それと近年開発されたマンションがある。この辺りにマンションが沢山できたというのが、地域の特徴になります。

このような地域的な特徴を裏づける特徴を持った地域でまちづくりをしようということで選ばれたわけですが、まちづくりの理念はこのようなことで、それをこのように構成される地域コミュニティでもってやっていきたいと思いますというのが、基本になっています。

今ご説明させていただきましたが、この辺りに地域の特徴があります。

ここで、まちづくり協議会が実際にまちづくりをどのように進めていくかについて、いろいろな調査をし、それに基づいた方針を策定いたしました。方針としては6つあるわけですが、道路交通環境の改善をしようということで、アイテムが4つ。それから快適に暮らせる住環境づくりと

ということで4つ。安全・安心まちづくりの推進が4つ。緑と自然のまちづくりが4つ。各項目の中をひもとけば、公園の活用、緑の保全と創造、農地の保全と活用、鶴見川河川敷の管理と整備、エコ・コミュニティづくり、地域コミュニティづくり。このような形で6つの方針を作りました。

この策定に至る全体の流れとしては、平成13年、今から5年前から始まっているわけですが、協議会が発足したのは平成13年。構成メンバーとしては、先ほど申しましたように東本郷地区にある自治会の数は実は12あるのですが、12の自治会の代表者と連合の役員の方でもってこの協議会がスタートしました。その後、NPOですとか、そのような活動の方も実際には参画してきているわけですが、毎月1回ずつ、年間11~12回ぐらいの定期的な協議を重ね、平成15年、平成16年と推移し、そして平成16年にこの検討の結果に基づく素案を作りまして、素案ができてから平成17年に原案が公表されました。この間にパブリックコメントを受けてこの原案が出来上がり、審議会の検討を経て、平成17年にこのまちづくりプランが確定したわけです。

その間、先ほども説明されました、各区のまちづくり計画が作られてきているわけですが、平成17年度に、先ほど竹内が説明しましたようなプランが策定されているという流れがあります。

計画はできたわけですが、これを実際に実行へ移すということについての形をイメージ化したものがこのようなことです。地域住民を含む自治会、それからNPOなどの団体による活動をテーマ化、相談化、そのようなものと行政がコラボレートして、実際にまちづくり計画を進めていくという流れになっています。

実際に計画ができて、その計画でもって事が実行できるわけではなくて、実行をするためにアクションプランを作っています。これが具体的に4つのプロジェクトを作りまして、その1つが地区横断的な防災計画づくり。これは具体的にこのような計画が、この場合ですと7つあります。

それから2番目が、市道鴨居297号線の歩行者空間の改善。これは市バスが通っている道路ですが、交通環境が非常に悪くていろいろな問題がありますから、それらをどのようにして潰していくか。

それから3つ目が、小型バス運行と合わせた道路環境の改善という形で、5つの具体的なアクションプランを作っています。4つ目が、緑の地域づくりということです。

この〇の部分のプレークダウンしてみたいと思います。先ほどの1-①にありますのが、安心でわかりやすい避難ルートの設定。ここに内容があるのですが、「短期」というのがあります。計画のアクションは短期、中期、長期になりまして、計画そのものがおおよそ20年後のまちづくりを目指したという形で計画が出来上がっているわけです。そのアクションはすぐやるべきもの、5年くらいかけてやっていくもの、20年後までじっくり腰を据えながら一つ一つしていくものというようにアクションの期間の設定をし、それぞれの内容について、市民の領域、行政に協力をお願いする部分、これがコラボレートなのですが、そのようなことを一つ一つ計画されてます。これは避難道路を実際に検証して、自治会ごとの防災拠点を見直すにはどのルートを使うとか、これは安全マップですが、どこにどのような問題がありますという資料を作っています。

これが3番目の小型バス運行の部分ですが、これも昨年の4月に、小型バスの運行が実現いたしました。この特徴は、朝タルートと日中ルートに分けていることです。朝夕の場合は通勤通学者が多いだろうということで短時間で運行できるようなルートで運行する。日中ルートは山手になっている戸建住宅団地、高齢者が住んでいますから、駅に行ったり、病院へ行ったり、銀行に行ったり、買い物などに利用できるようなという形で、この団地の中をグルグルと回って、所要時間が倍の30分かかる。このようなルート設定をしているのが特徴になります。

そのような形で、一つ一つアクションプランについて進めていっているのが特徴でございます。時間を押して申し訳ございません。(拍手)

(中谷) 私は、平成 11 年から 2 年間、青葉区の代表委員をしました。青葉区のマスタープランがどのように策定されたかをお話する前に、青葉区の特徴を説明申し上げます。

青葉区では、マスタープラン(区プラン)を作るときに「区民まちづくり会議」というものを作りました。65 名の区民が公募で参加をして、テーマ別に検討しました。先ほど、ほかの区も地区ごとに検討されたという話でしたが、桜井さんのお話があったように、市のプランがあって、その下の細かいプランは地区で行いました。区としてどのような形を位置づけるかという観点からするために、テーマ別に検討したということです。それからもう一つ、区プラン策定には青葉区民会議がここにかかわっていたということ、後で少しご説明しますが、実は、私は代表委員として青葉区の策定委員会の方に入りました。そこで、地域のグループ、地域代表あるいは関連団体代表と一緒に論議をしました。区民参加の「区民まちづくり会議」が『次世代への贈り物』という提案をしました。これは、区の提案、策定委員会の提案とは別に区民がつくった提案を出してそれを策定委員会の方に持ち込んでこられたということです。行政の区プランのほかに区民が区プランに変わるものを作成したということが、青葉区の特徴ではないかと思います。

青葉区プランも『次世代への贈り物』も青葉区のホームページに載っておりますので、ぜひご覧いただきたいと思います。青葉区役所ホームページに全部掲載されています。

(掲載ホームページサイトに沿って説明) この一番上の青葉区プラン策定委員会というのがございますが、その次に、青葉区民まちづくり会議というのがあります。それからずっと一番下の方に「まちづくり掲示板」(電子掲示板)がございまして、いろいろな区民の方から意見を出してもらえよう形で進めてきました。

まちづくり会議そのものの実情をあげますと、ここにありますように、区民会議から 16 名がこのまちづくり会議に参加しました。提案型の方がみんな入っていただくということです。私が区の策定委員会の方に入りました。一番下の方にございますが、青葉区まちづくり会議からも策定委員会に入ってくるという形で、区の策定の中にまちづくり会議の意見「区民の意見」をどのように反映するかということが非常に大きな課題だったわけです。

一番上に「スタッフ募集」とございますが、区プラン策定に合わせて区民に呼びかけて公募をしました。その中に、テーマ別会議、7つのテーマ、これは実際には8つのテーマだったのですが、子育て、交通、自然環境など7つの課で、8つのテーマについて分科会を持って論議をしたわけです。それをコーディネーターがまとめるのではなくて、ワーキンググループを作って区民自身が自分たちの手でそれを提案にしていこうとしました。単に行政に向かってご意見、要望を出して、「これを反映してください」ではなくて、あくまでも提言・提案として出して、それを策定委員会が出す区のプランとは別のものとして出していこう、それを区民の意見として是非出していきたいということで動き出したわけです。このスタッフ会議は、7月から12月まで非常に熱心な論議を連日繰り返し行いました。要望型の何でもいいから行政にぶつけてみようというのではなくて、具体的な実行プランとしてできるものにしていかなければならない。その中に東急の企画関係の方も入っていましたし、それから区民会議の中でもプランニングが得意な方も大勢いらっしゃいました。その方が参加する中でこのようなものをまとめていったわけです。最終的に策定委員会と区民まちづくり会議と交流会をしまして、意見交換をしました。

そのような中で、区民が作った提案が具体的なものとして出てきたものが、ここにあります『次世代への贈り物』です。なぜ次世代かということ、先ほどお話がございましたように、20年後の青葉区を想定しようとなりますと、50歳の方は70歳の時代を考えなければいけないということです。そのように考えると、次世代がどのような形であるべきかを考えなければいけない。それから、

区役所が作りますものは都市計画に基づくものですが、そこに生活する視点からも考え方を盛り込んでいかないと、いわゆる絵に書いた図だけのものになってしまうのではないかと。ここにバスが走ればいい、町ができればいい、住宅ができればいいということではなくて、あくまで住宅環境、交通基盤、生活しやすい道路とは一体何だろうか、それから地域の福祉を考えるにはどうしたらいいか、あるいは子育てについてはどのようにしたらいいのか、あるいは一番大きいのは、水と緑をどのように守っていくという問題あたりが非常にクローズアップされてまいりました。

それで結果としてこれに書いてありますような「次世代に引き継ぐまちづくりを目指して」というものが、『次世代への贈り物』としてなされてきたわけです。この中で、特に大きいのは次世代というものに対して、負担をかけない開発をするべきではないかということです。「30万人都市にふさわしい都市施設」とありますが、例えば美術館がないとか、何がないという話になるのではなくて、30万人の都市を運営するのにふさわしい都市機能を発揮する施設とは何だろうということを論議して考えようということが、

この中で論議されたわけです。それから2番目に「魅力的な町並みの追求」とありますが、ここは実は世代間交代があります。緑区でも40年前の住宅という話が先ほどありましたが、同様に、青葉区も30年代、40年代に開発した都市、当時の住宅地です。

今では山の上に高齢者がいっぱい住んでいます。「定年通り」と言われるような、私も実はその1人でしたが、住宅地に高齢者が坂を上り下りして生活をしなければいけない、バスは来ない、高齢化していく中でどのように生きていけたらいいのかという悩みが出てくるわけです。そのようなものをどのようにとらえるかという視点で、まちを再生するためのまちづくりの在り方があるべきではないかということが提案されたわけです。

そこで、ここにありますように、青葉区というと区画整備が非常にできて、交通も便利で、立派な町じゃないかというような、緑の豊かだと観念的なことをいわれるのですが、実はその中には非常に問題があります。先ほども小池さんが言いましたように、若い町と若い世代と言いながら、実はどんどんと高齢化が進んでいると。本格的な高齢化のまちづくりはどのようにあるべきなのか。それから、そのような高齢者ばかりの町になると、自然的に活力はなくなるし、自治会活動も非常に難しくなってくることもあり、魅力というものが薄れてくる。早く言うと、町の資産価値がどんどんと下がってきてしまうのではないかと。そのようなものを活性化したらどのようなことができるのか。

それからもう1つ、自然環境の問題があります。当然ながら、緑がある方がいいに決まっているわけです。あるいは農地がもっと残っている方がいい。しかし、そのような農地を残すために、ただ「残してください」では済まなくなります。農家の方々が将来農業を続けられる環境をどのように維持していくのか。あるいは緑地を残すためにどのようにしたらいいのか。その中で出てきたのは、トラストという考え方も盛り込まれてきました。当然ながら、緑を享受する側の負担も考えなければいけないのである。これは策定委員会でも、かなり農家の方、農業関係の方からこのような発言が非常に出ました。「あなた方は緑を保全しろと言うけれども、人の土地を残せと言うけれども、私にいつまでも百姓をしろということか」という発言が出たわけです。そのようなことも踏まえて、享受する住民側の負担も考える必要があるのではないかと。ということで、良好な住宅環境の維持、次世代に引き継ぐためにどのようにしたらいいのかというプランが出されてきたわけです。

これは実は、このときに同時に行われた意識調査です。一番上にあります「区の人口増が緩和しますか」。これに対して「そのようなことはないだろう、どんどん増えるのではないかと」。それから「車依存社会から公共交通機関を重視する形になりますか」に半分くらいの方がそんなことはできないと言っています。「夫婦のみや一人暮らしの高齢者が増加しますか」に対しては、ほとん

どの人はそのように思っています。それから「農地の宅地化の進展による田園地域の住宅地化が進むのではないか」と。かなりの方がそのように懸念を持っているわけです。そのような中で、町をどのようにつくっていくかということが非常に大きな話題になります。

これは区から出されたもの、2050年、非常に長期ですが、青葉区は既に30万人都市になりました。つくられたときは24万人ですから、年々4,000人ずつ人口が増えています。いずれ港北区のお兄さんを抜くことになるのですが、青葉区の最高の人口推定数は33万人になります。そのときに青葉区のありようは一体どのようになっているのか、空き地はほとんどなくなっているのではない、緑地のところがなくなって住宅地になっているのではない、あるいはマンションがどんどん増加するのではない。良好な住宅地はそのようなことが非常に懸念されます。ということで、少子高齢化で減ってきますから先はこのようになるのですが、いずれにしても青葉区はまもなく港北区を抜く、人口密度の高い町になっていくのではないかと思います。

それからこれは緑被率ですが、ご覧のとおり、これを見ますと、緑区は非常に緑豊かで、さすがに「緑」ですね。しかし、この中で緑被率を見ても……。一番上が緑区です。45%維持して、非常にうらやましい限りです。赤い線が青葉区です。どんどん下がっています。それよりもお兄さんの港北区はどんどん下がって行って、横浜市の全体平均より下がっていくのです。このような状態の中で、本当に緑を保全することはどうなんだろう。これは都市の基本的な形の在り方として、このようなことを真剣に考えていかないと、ただ線を引いて、ここに緑があればいいですでは済まない事態が来るのではない。そのような視点から取り上げたわけです。

それで青葉区プラン推進の課題と考え方として、住宅地におけるまちづくりのルール化をしようじゃないかということが、非常に大きな課題です。それからもう一つ、樹林地や農地の保全をどのように進めるのかという問題。それから公共交通機関の育成をして自家用車の利用をどのようにすれば抑制していくことができるか。資料で渡しておりますが、我々の考え方といいますか、区づくり会議の皆様方の考え方は、私も策定委員会として参加したこともありますが、かなりの部分が青葉区プランの中に盛り込まれています。これは、区役所も策定にかかわる途中の経過として、このようなものが作られたということは、青葉区のプランの一つの資料として付属文書として残そうということになっております。それからもう一つ、拠点整備と商店街沿道利用。これは当然ながら、シャッター通りがどんどん増えてきて、青葉台といえども、青葉台の駅周辺はいいけれども、少し離れた所の商店街がどんどんと今なくなってきているという状態があるという問題を指摘しています。

住宅地の高齢化に対して、青葉区は建築協定が非常に進んでおりまして、44カ所で建築協定が進んでいるということがあります。それからまち普請でも、既に3カ所ぐらいで動いています。実は青葉区は地区プランはまだ何もできていないのですが、具体的に言うところのような形で建築協定でかなりそれぞれの地域の町の景観を保存しようという形が、非常に具体的に動いております。それから2番目にあります、東急電鉄本社による住み替え促進。これは最近「アライエ」という方式があって、高齢者の住んでいる古い家を買って、それをリニューアルして若い人に売る、お年寄りももう少し平地のマンションや小さな所に住んでいただくという、住み替えを促進するという事業活動も動いているわけです。これは事業者としての一つの役割です。「まちづくり会議」のあとに「横浜青葉まちづくりフォーラム」というのができました。作った区プランを具体的に実行するに当たって、コーディネート役をする団体を作る必要があるだろうということで、まちづくりをフォローしようということで出来ました。

それから、青葉区民会議の継続的な取り組みとして交通問題について非常に大きな取り組みをしております。特に区役所の駐車場を有料化をして100円バスを実現させようということで、これ

はかなり具体的に区役所も動いておりまして、いずれ実現するのではないかと思います。具体的なテーマとしては、区民会議の役割として、このようなことに継続的に取り組んでいくということを行っています。

それから、当然ながらまちづくり指針ができて、それを絵に書いた餅にしておくのではなくて、PLAN－計画し、DO－実施をして、さらにそれをCHECK－評価をし、それからさらに次のプランにACT－続けていこうというサイクル活動PDCAを続ける必要があるのではないかと思います。これはこれからの大きな課題だろうと思います。

以上でございます。(拍手)

◆発表者、会場者との意見交換

コーディネーター 桜井 悦子

(桜井) それでは20分間ということで、今の発表をもとに少し話し合いをしたいと思います。

テーマは「各区のまちづくり計画をもとに10年後のまちを考える」ということです。それぞれの区のまちづくり方針ができました。これを振り返ってどうだろうかという話と、今後どのようにしていけばいいだろうかという話をしたいと思います。

1つは、青葉区のお話を伺って、都市マスタープランの住民参加を形式的ではなく、実際に本格的にやっていたらというところが、今後の1つの目標かなと思いました。そのような住民参加ができるためにどうしたらいいだろうかということがあります。それから、今後のこの先10年間に向けて、このようなまちづくりをしたらいいのではないかと、区民会議としてこのようなことに取り組んだらいいのではないかとというようなことを、それぞれの方に述べていただければと思います。

まず、緑区の方から、区プランの評価、それから今後10年間のまちづくり、区民会議としてどのようなことに取り組んだらいいかということで、お話をお願いします。

(中島) まちづくりについて区民会議がどのような取り組みをするかということですが、区民会議の性格、それは青葉の小池さんが言われるのですが、政策提案というのが一番ベースにあるべきだと思います。実際に、今、行政の方は協働ということではいわれますが、区民会議の構成の状況から言うと協働についての示唆をする、提案をするということではできるのですが、実際に協働のアクションを取るというのは、なかなか難しい問題があると私自身は思っています。

ただし、区民会議に限っての話ではないですが、実際に現状から考えたら、ソフト面で住民、市民が活動していかないと、まちづくりは絶対にできないということで、そのような意識啓蒙といいますか、やるべきことをもっと具体的に提言・示唆するという方法でもって、区民会議は活動する部分がたくさんあるのではないかと思います。先ほど中谷さんもおっしゃったのですが、そのようなソフト面で具体的な提言をし、それで成果を上げていくのですが、私は東本郷地区のまちづくりプランをしていて、地域住民の協力を得るということは、なかなか難しいと思っています。よく出てくるのは住民のエゴみたいな話が先に出てしまいます。それを乗り越えて、住民の方に協力いただけるような形にするためには、小さなテーマでもいいので、実際に飛び込んで、その成果を上げる。それを一つ一つ積み上げていくことが大事ではないかと思います。東本郷の場合は、小型バス、路線バスの運行を実現しましたので、これが引き金になって、ほかのプランも一つ一つ積み上げていくことができるような土台ができたのではないかとということで、私自身は喜んでます。

(桜井) ありがとうございます。確かに都市マスタープランはハードな計画で、しかもかなり町の骨格にかかわるようなことが主な内容になっており、これを住民参加で提案しても、なかなか覆

っていないというものです。ただ、そのようなハードのまちづくりの計画というものが、どのように出来上がっているか理解することが重要です。

先ほど青葉区からお話がありましたが、例えば緑地保全一つとっても、その背後にある利害関係を持つ人たちの以降を踏まえて、土地を持っている人が守っていける仕組みを作らなければいけない。また行政側が全体をどのようにとらえているか。分野別の計画や、相互の関連も見極め、そのようないろいろなものが複雑に重なって、一つの計画が出来上がっているということ。これをまず理解しないと、市民としても小さな部分についての提案をしていけないと思います。その上で、今おっしゃったように、ハードな器を作るためには、ソフト側でどのようにそれをうまく使っていくかというような生活者の視点での提案や、あるいは一つ一つのパーツをより詳細に地域の視点から見るとこうあるべきではないかという提案など、市民から提案できること、あるいは実行できることが分かってくるのではないかと思います。

では、竹内さんお願いします。

(竹内) 緑区の竹内です。中島さんやコーディネーターの方がおっしゃったことと同じようなことですが、どうしてもまちづくりというと、まず頭にハード系の話が浮かぶわけですが、これは行政の予算の関係もあります。最近は予算もどんどん減っているわけです。そのようなこともありまして、もっとソフト的な面を区民会議としてはリーダーシップを取れるのではないかと思います。私は3本柱を掲げてきているわけですが、まず、安全・安心のまちづくり。これは従来からやって取り組んでしております。

それからもう1つは、環境問題です。地球温暖化の問題。最近盛んにいわれていますが、それと、まちづくりは人づくりであるという考え方があると。これは次の教育の問題です。現在の我々の問題もありますが、我々の次の世代、子供や孫の世代にいい環境をつくっていくことを考えるためには、やはり区民会議としては、ソフト面にリーダーシップを取ってやっていくのが本来ではないかと。これが私の勝手な考え方です。以上です。

(中谷) 先ほども少し申し上げましたが、住民参加ということ、どうもガス抜きとか、言いたいことだけ言って、そこで行政の批判をして、要望を出して終わり、後は行政が何とか反映してくれればいい。そのような時代は終わっているのではないかと思います。むしろ、市民側から行政の一つのプランというものを、具体的に住民が引き寄せるためにはどのようにしたらいいだろうかということを考える。そのために仕組みというものをきちんと知らないと、なかなか具体化できないのです。先ほど出ました大きなプランの中で、ディテールについては市民側からもっと意見を出して具体化していくべきだと思いますが、はみ出した部分について、土地を、緑を保全するために全部公園にしようと思っても、できるわけがないのです。そのようなことをどのようにして具体化していくかということ、行政の仕組みそのものを知る必要がある。あるいはこのような基本的なプランを作るときに、大いに参加して、そこで意見を出して、それを実現していくという努力をする必要がある。要するに、区民が勉強しないと、なかなか実現しないのです。ですから私どもとしては、このような具体的な問題、先ほどお話で出ていましたが税金を使ってやる時代ではないわけですから、ここをどのようにして実現するかということについての勉強と提言をまとめていく。特に区民会議というのは、私は地域のコーディネーター役ではないかと思っています。自分の意見を述べるだけではなくて、それをまとめあげていく能力が非常に問われてきているのではないかと。それをまとめるには、いろいろな意見を聞いて、あるいは行政の意見、事業者の意見、区民それぞれの地域の意見を聞いてまとめていく作業ができるわけです。これは本当に市民が地域をつくっていくこ

とになるのではないかと思います。ちょっと理想論的過ぎますが、今、区民会議にその能力が問われているのではないかと私は思っています。

(桜井) ありがとうございます。

先ほど、港北区の発表のとき、あまり具体的なことが言えなかったのですが、港北区の都市マスタープランを作る過程で常に課題だったところとか、あるいはその後の状況変化でちょっと問題があるというところが、実は幾つかあります。道路や再開発など純粋にハードの話です。

例えば新横浜南部地区という所がありますが、新横浜の南側で、まだ何にも開発されていなくて、細い道路と丘陵地と密集した住宅地があって、横浜の新都心といわれている駅前がそのような状態で、ずっと放置されている。区画整備すると位置づけられているのですが、住民どうしの意見調整がなかなかできない。行政側もしっかりと情報開示して、計画づくりを公明正大に進めることができなかったという、プロセスプランニングの問題もあって、非常にこじれてしまったという経緯があります。これを今後どのようにしていくか。

あるいは綱島駅の東口。ここは交通や商業の拠点地区で非常に重要な地区ですが、いまだに再開発の動きができない状態です。それはなぜか。

それから、都市計画道路で言えば、都市計画決定されているのですが、全然動かない。行政側もやる気がないし、住民もそれほど必要と思っていない。それがずっと計画決定されたままでいいのか。例えば菊名から白楽、東横線沿いに通っている都市計画道路があるのですが、それは非常に細い道路のままです。本当は都市計画決定されている道路ですが、本当に拡幅が必要なのかどうか。

それから、新吉田の方に調整区域があります。調整区域というのは、市街化を抑制する地域ということで位置づけられていて、農地などに活用されているものですが、そのように位置づけされていながら、自然発生的に倉庫や資材置き場になってしまって、調整区域としての位置づけがほころびてきて、景観的にも土地利用的にも乱れて、非常に問題になっている地区がある。

また、都市計画法の用途地域が見直しをされて、用途地域の変更をしたときがあるのですが、そのときに、現地の状態を見ずにそのまま変更してしまいました。集合住宅というのは中高層ビルですから、かなり高い容積率が必要です。前は住居地域などで容積率が比較的高い用途地域だったのですが、その用途見直しによって、容積率が低い用途地域に変更されてしまったという所が結構あります。そうすると、マンションなどが老朽化して建て替えようとしても、建て替えられない。既存不適格というのですが、そのようになってしまった所をこれから一体どのようにしていけばいいのか。

そのように、都市計画として非常に問題な地区がたくさんあります。そのような所はなぜそのようになってしまったのか、そこにかかわっている人たちは、どのように提案していけばいいのか。それは利害関係、そこに土地を持っている人がどのように思うかということをもまず聞かなければいけないですし、それから拠点地区であれば、周りの人がそこをどのように使っていくかということで、周りの人の意見も聞かなければいけない。そのようなお互いの利害がぶつかるところでの意見をフランクに自由に出し合って、そして行政側の計画もきちんと理解をして、そして将来を見据えて、「じゃあ、こういうふうにしていこうか」と、市民同士で提案ができるように市民が力をつけていくことが、これから重要なのではないかと思います。

勝手にしゃべってしまいましたが、先ほど、港北区のところでおもうと思っていたことを言い忘れたので発言させていただきました。

都市マスタープランというのは、突き詰めていくといろいろな問題があるということを少し知っていただきたくて、お話をしました。

皆さんからあと一言ずついただきたいと思います。せっかく3区交流会をしているので、将来、3区一緒にこのようなまちづくりができたらいいのではないかとというようなことがもしあれば、お話を伺いたいと思います。

(中谷) 私が常日ごろ思っているのは、横浜市の最大の欠陥は何か。この300万人都市の政策の決定権は、1人の市長に委ねられていることです。各区の区長はご存じのとおり、行政の出張所長みたいなものですから、それぞれ地域のことを大事にすると言いながら。

私は今、杉並区に移住をしました。杉並の区長がしょっちゅう地元のテレビに出てきて、政策をどんとんとしゃべるのです。環境の豊かな学校をつくりたい、あるいは10年後には税金を10%減らすことはできないか検討しているなど、そのようなことを言える区長です。そのようなことを横浜の区長はだれも言えないのです。ここが横浜市の最大の欠陥かという気がしています。ただ、現在ある制度の中ではできませんが、これから、例えば県制度が変わり、広域化されたときにどうするのか。その場合、横浜市の在り方をどのようにしたらいいのか。例えば、北部4区を1つの市にしてしまう考え方もあるだろうと私は思っています。それだけの大きな規模、100万人都市を超えてしまうわけです。北部4区だけ集まっても、そのときの横浜の在り方ということをもう一度考えておく必要があるのではないかと私は思っています。都市計画と離れた非常に大きな話になりました。失礼しました。

(中島) 今、中谷さんがおっしゃいました、横浜北部市構想、実は私も大賛成です。

その話は、別にまちづくりというのは何だろうかということは何時を考えています。地域コミュニティというのは、要するにまちづくりなんだと私は考えています。

昨日、たまたま東工大の講演を聴きにいきましたときに、ソーシャル・キャピタルというのでしょうか、「人間関係資産」という言葉で、そのことを先生が表現されていました。今、それにつながる組織的なものというのは自治会があるわけですが、住民から見た場合、自治会は実質的には崩壊状態に近いのではないかと考えているわけです。

ただしその地域の中で、テーマ別に非常に熱心に活動をされている市民はいっぱいいるわけです。それは子育てであったり、福祉であったり、環境であったり、いろいろな面があるわけですが、非常に情熱を持って献身的に活動をされている方が、自治会の中でもいっぱいいるわけです。そのような方々が一つの地域としてネットワーク化されていないために、ネットワーク化ができていないために、地域コミュニティという形になっていないところ、なっていないから総合力が出てこないのではないかと。そのネットワークを回す方法というのは、それほど簡単に行くことじゃないのですが、そのような仕掛けをすることも区民会議にとって一つの重要な課題ではないかと、私自身は感じております。

(竹内) 余計なことばかりお話しして、時間をいただくのも申し訳ないですが、最初の時に青葉区の小池さんからお話がありましたように、青葉区の男性は日本で一番長生きらしいです。一番元気。上位20位までに横浜市が4つ入っています。青葉区は17位で終わりの方。14位が都筑区。残念ながら港北区は20位以下、番外ですね。

女性の方はどうかといいますと、青葉区の女性は全国で7位だそうです。あとは皆番外。女性の方は沖縄などで非常に長生き所があるということです。

ということで、横浜市は北部4区、外から見ると「一番住んでみたい」と憧れの地になってい

る訳です。幸いに今後グリーンラインでつながり、今度北部4区が一つの市にしたらどうかというお話が確かに、それは私も今までに考えたことがなかった訳ではないですが、区の各予算は市から分けてもらい市が握っている。

ほかの東京都はそれぞれ独立の行政区画ですから、例えば千代田区であれば、千代田区の予算を握っている。予算も豊富だと思います、ということで図書館が18軒あるわけです。それを一つの図書館で賄っていくのは大変です。お金も掛かります。ですから都市の規模というものがあるのでしょう。

100万とか200万とか、ですから地方都市に行くとなかなか良い都市が色々あります。住みやすそうな所もあります。そのようなことで4区を市にしたらどうかという話がありましたが、是非考えて頂き、それもこれからの行き方かと思います。

先ほど言い忘れましたが、環境問題と人づくりの問題ですね。これは我々の世代の問題ですので区民会議として積極的に取り組んで行き、主導権の取れる問題ですし、今後このような方面に、箱物づくりばかり考えていないで、このようにいけばいいのではないかと考えています。

(桜井) ありがとうございました。時間ですのでこれで最後にしたいと思います。

一つは、都市マスタープラン、まちづくり方針と言っていますが、再三言うようにハードな計画で。いろいろある部門別計画のうちの1つではありますが、非常に重要な基礎的な計画です。そして各区とも住民参加で作ってきています。港北区についても、特に地区別の将来像みたいところは、しっかりと議論して、住民の意見が入っています。そのようなところもよく読んで、これから先のまちづくりの参考にさせていただきたいと思います。

一つ残念なのは、区役所に「まちづくり方針」が置かれてなかったということ、ちらっと聞きました。「役所の方がそんなことでどうするか」と言いたいところです。区民会議の方はまちづくり方針をしっかりと勉強して、役所の方をしっかりとリード形に是非して行ってほしいと思います。

今お話に出ましたように、横浜市南部の方は人口が減ってきていますが、北部4区は人口も今のところは増えてきて、逆に増えていることでの問題が出ていたりしますが、全体として環境もいいし、交通の便利もいいし、非常に恵まれた地域だと思います。

青葉区はよく横浜都民と言われていますが、鶴見川でつながってたりしますので、北部4区でつながって、自然環境、交通のネットワーク、人のネットワークなど、いろいろな意味でつながると、いろいろなことができると思いますので、そのように連携して、動くまちづくりもぜひ今後考えていただければと思います。

では時間になりましたので、これをまとめとして、終わりたいと思います。どうもありがとうございました。(拍手)

休憩

○第二部 分科会

◆第1分科会：環境にやさしいまちづくり 青葉区民会議 進行 小池 由美

サブテーマ ～エゴからエコへ～

発表者 青葉区 加茂千津子 緑区 坪井寿彦 港北区 井口一三

(小池) 資料を先に見てください。青葉区の報告は加茂さんからされます。緑区は坪井さんから。

港北区は井口さんにさせていただきます。井口さんは不法投棄について、

それから緑区の坪井さんはエコ、CO2についてお話があるということです。青葉区では加茂さんから自然環境、ごみの廃棄、それからエコがよく叫ばれていますが、自転車がどのような形でエコにつながるのかということで、自転車利用についても青葉区の区民会議でしておりますので、そのことについて触れていきたいと思います。

◆青葉区民会議

(加茂) 青葉区から発表をいたします。青葉区の第1分科会の「環境にやさしいまちづくり」の発表をいたします。

青葉区は4つの部会がありまして、今日の発表は自然環境部会と防災・防犯・交通部会から取り組んでいる問題を発表したいと思います。

自然環境部会の活動は、テーマ別のグループ活動、それから行政との打ち合わせ、そして施設見学・自然観察・調査活動というこの3つの柱でしてきました。その中のことを説明していきます。

行政との打ち合わせです。市や県など担当の課といろいろな打ち合わせをしました。

1つ目はビオトープ雨水調整池。これは後で説明します。その保全活動について、環境創造局と2年ぐらいにわたって、ずっとかかわり続けています。

ここでビオトープのことを少し紹介したいと思います。青葉区の特徴としまして、雨水調整池にビオトープがたくさんあります。

ここにあるのがそうです。知らない方に、雨水調整池を少しだけ説明いたします。

2種類ありまして、このように3面張りのものと、ビオトープ型があります。その中のビオトープ型について、自然環境部会は3年前から取り組んでおります。赤田ビオトープ。最初、1年たった後、そして現在というふうに写真で見てください。これが黒須田、建設中、完成、そして今。現状、このようにクレソンの花がいっぱいです。

私たちは、緑の中の青葉のオアシスとして、雨水調整池を考えております。よく見ると、このような花や虫や鴨などがいます。

雨水調整池の役割は、大雨が降ったときに一時的に貯留するところです。今では子供たちが環境の勉強、または生物の勉強で訪れるようになっていきます。

続いて2つ目の行政との打ち合わせ、鶴見川サイクリングコースについてですが、ここは神奈川県青少年課が管理しております。青葉区民にとってはとても大切な、そして憩いの場所になっていきますが、夏はこのように草が生い茂って、非常に危険な状態があります。そこで私たちは、快適に歩けるようにというお願いに県の青少年課を訪ね、いろいろと打ち合わせをしました。

2つ目にしていることですが施設見学会、自然観察会、調査活動です。これはずっと送っていただきたいと思います。いろいろなところへ行きました。生田緑地。それから谷本川北部の自転車隊で自然観察をしました。この辺は見ていただければということで。川をたくさん見ているのですが、谷本川について関心を持っており、どのように提案ができるかという、そのための勉強に川を巡っています。

続いて、ごみのことについて発表いたします。ごみ問題は、何年も前から取り組んでおりますが、今日の話題のテーマになればということで、ごみ減量化・資源化を推進するために問題点を幾つか挙げました。これからの話し合いでお役に立てればと。使ってみてください。プラスチック容器包装について、今、いろいろな問題が出ています。

紙類についても問題が出ています。次のテーマの話題になればと思います。

ごみはリサイクル施設見学ということも行っておりました。

本年度は2カ所行きました。プラスチック製容器包装の中間処理工場です。

これは、横浜市の中の半分の区の間処理を行っております。

それから、私たちの取り組んでいる次のテーマですが、これは第6期から継続しておりますが、いろいろな所を訪ねると、青葉区にはこんなに素晴らしい自然が残っていたとみんな感動します。そしてこれをぜひとも次世代に残したいという思いが多くあるのですが、ではそれをどのような形にしていけばいいのだろうかというのが、前期からの継続課題です。そしてまだ結論ではありませんが、まずは残したいビューポイントということで、ホームページに掲載できるような形で今残しています。

これは一部ですが、このような形でまとめています。(写真提示)

もう1つのグループ、防災・防犯・交通部会からの前期の取り組みを紹介します。

自転車をキーとした交通問題を調査しております。環境問題からの自転車利用促進、歩行者から見た自転車の問題点、自転車利用者の安全に関する意識を考え、具体的にはアンケート調査を今年の2月、3月に行い、910件の回収を得ました。そして毎月交通問題の勉強会を実施しております。

ここに書かれているのは、自転車の(歩行)通行可の標識があるのですが、木に隠れて大変見えにくくなっております。

それから路上にはこのように自転車が駐輪されております。これも標識が見えないというところ

です。青葉区で「荷捌きスペース」が昨年にできました。渋滞を解消するために、道路のところを少し広くして、そこに自動車を止め、荷物を下ろしたり、積み込んだりするスペースです。これは青葉区民会議が以前から渋滞緩和について何か政策はないだろうかと提案してきたものにつながっていることと思います。

これはその910件のアンケートを取った状況です。顧問議員と意見を交換しながら、分析しているところです。

また、青葉区では交通アクセス改善施策体系がありまして、区民会議からもその委員会に参加しております。

「あおばエコムーブ」といまして、区役所にはバスに乗ってキャンペーン、そしてワンコインバスが具体的な形で動いているということも区から聞いております。また、エコムーブ懇談会に区民会議員として参加しております。

以上、非常に早口で、早足で行きましたが、青葉区第7期区民会議、前期1年の活動報告です。

(小池) ありがとうございました。これについては、またそれぞれに分かれたときに、意見があれば、聞きたいことがあれば、聞いて話を展開させるということで、まずは報告者の方からお願いしたいと思います。

それでは次に、緑区の坪井さんをお願いしたいと思います。資料だけでよろしいのでしょうか。お手元の方に配付資料がありますので、そちらをご覧ください。

◆緑区民会議

(坪井) 緑区の区民会議、環境部会に所属しております坪井と申します。一応、映すものがあるのですが、時間がもたないなので、レシビがありますので、それを見ながら進めたいと思います。題目は「緑区民会議の取り組む地球温暖化対策」です。

緑区として、昨年の12月に、今、世界的に問題提起されております地球温暖化対策に関して、

地球温暖化対策協議会を発足させました。その中で、区役所が主になるわけですが、緑区から「ストップ温暖化」ということを強力に進めようということで、その会が発足したわけです。

テーマとしては、我々区民会議として、どのようなことがその中で実行可能かということ。まだまだ緒についたばかりですので、今後いろいろと詰めたりする必要があると思います。これからのテーマある程度進めているものもありますので、今日はここから紹介したいと思います。

まず、取り組むべきテーマということで、1番目として、省エネ行動・エコライフとなる実践ということを挙げてみました。省エネというか、これを改善するには、やはり個人個人の意識が非常に大事だと思います。電気もこまめに消す。車はやめて電車で行くといった意識改革が必要で、区民会議としても啓蒙活動が必要だと思っています。

緑区全般、ある地域でスーパーのレジ袋についても地域で取り組むことが必要。COS を発している量を量って見て、どう改善されたかを年度でやって見る。

二番目として、温暖化対策として良好な水環境や緑の創造が考えられます。昨年の区民のつどいでは緑区の住みよい環境を考えると「人も生き物も豊かになれる緑の在り方」として講演会を開きました。自然環境を守ることが如何に大切かを述べました。区民への啓蒙活動を続ける必要があります。河川沿いの水と緑の回廊づくり整備促進、緑区まちづくり計画の中に概要が書かれています。

緑区は恩田川、鶴見川が主要な河川としてあります。その他に梅田川もあります。恩田川、鶴見川というのは神奈川県管轄。梅田川は市の管轄になっています。市の管轄部分に関しては比較的堰堤の部分の整備は進んでいて親水化も進んでいます。恩田川、鶴見川に関しては予算の問題もありますし、あまり良い整備状況ではありません。

一方町田市に入ると立派な遊歩道ができていたりしますので、その差を出来るだけ詰めるような方法を推進したいと思います。環境部会としては逐次堰堤の整備を進めたり考えています。具体的なものは個々に載せていきます。

二つ目にヒートアイランド対策として屋上緑化を提言している。少子化が進んでいるとすると緑区の中では小中学校の廃校があります。この敷地を緑地化する有効な温暖化対策ができないかと提案している。

次に、河川沿いの水と緑の回廊作りに発して、場所を具体的に設定してみて、どのような提言ができるか検討してきた。進めるにあたって何が各機関に聞いてみた。国土交通省京浜河川事務所鶴見川流域センターに聞いて見ました。緑区民会議ニュースの中に訪問概要を掲載しています。神奈川県横浜治水事務所、緑土木事務所も訪問した。

区を主体に提言してはどうかとアドバイスを受けた。ある程度限定をして恩田川みやこ橋から落合橋を経て鶴見川鴨池大橋近辺までを右岸対象として花や木を植えることを提言したいと考えている。写真があります。

選定した理由は、余裕がある、人家が少ない、地域温暖化防止をテーマとして二酸化炭素を吸収する、発生節減に効果があると区制40周年記念事業としても提案している。サクラや低木樹を植えることを提案したい。サイクリングロードの整備も提案したいと考えている。

◆港北まちづくり区民の会

(井口) 資料について説明ののち・・・我々住民が輩出するCO₂の量が多いことは先刻ご承知の通りです。もはやCO₂の削減は行政や企業がやってくれるだろうとか、誰かがやってくれるだろうからという言い訳ができない状態に追い込まれています。

一人一人が日常の生活の中で自己中やエゴを捨て積極的にエコに取り組まなければ、孫子の代には人間が住めない地球になってしまっているかもしれない。そんな今の時代に今回のエゴからエコへというテーマは大変タイミングの良い企画だと思います。

しかしながら、環境と一言でいってもその対象は我々人間が生活する上で総てに関わる問題であり、限られた人員と予算を持たない「区民の会」では行動をおこすについても、自ずから制限があり、苦しむところです。

そこで環境部会としては、区内を7ブロックに分け、登録委員を複数配置しそれぞれの担当地域の環境問題に取り組んで貰っています。

昨年は7月と9月に不法投棄・不法放置等の月間を設けて集中的に調査し、対象を行政に挙げ、それなりの成果が上がりました。9月には生活ゴミの分別と正しい出し方を勉強しました。最近では行政も問題の対処のスピードが速まり効果をあげていますが、今年度は行政側の窓口を一本化し必ず結果を報告して貰うようにシステム化しました。

また横浜の副都心を標榜する新横浜駅周辺の開発に伴う環境問題については、既に昨年より2回の調査を実施し、問題を提起する方向をまとめつつあります。この件については地元の管轄の総力を挙げて環境の悪化を防ぐ努力が必要です。

更には地下鉄グリーンラインの開通に伴い、湖北区内に位置する高田・日吉本町・日吉の3駅の周辺調査をしましたが、この新駅が軌道になった後どう推移するかを見守って行きます。

その他としては、エコキャップ運動に環境部会として加入し強力しています。また150万本植樹運動にも取り組みたいのですが、多くの関心を引くところまでいっていません。

今後の問題としては、カーボンオフセットについて研究・学習し、取り組んで行きたいと考えています。お手元の不法投棄や不法駐車等の資料をご覧ください。問題案件はこのように写真と略図或いは所在地を書き込んで行政に申し入れています。問題は公有地や私有地の判断ができないもの、不法構築物、不法占拠、不法住居などは行政に任せて対応して貰っています。どの案件にしても早くに処置をしないと次々に不法物件が増えてくることです。以上です。

◆第2分科会： まちづくりはひとつづくり

緑区民会議 進行 高橋 良寿

サブテーマ ～地域の子どもは地域が育てる～

発表者 緑区 高橋良寿 青葉区 竹本靖代 港北区 金子清行

(以下第2分科会記録は要旨のみとします)

(緑区民会議 区民福祉部会 高橋)

○子どもの育成は、学校で文章などを教えるが、地域で大切な次世代の子供として育てたい。地域では子供の不登校が1割もいるなど、育てるのは難しい。

○緑区の学校支援学級で講座と実習を行い、事後グループとして子供達をc儀域で育てたいメンバーが「青少年みどり遊楽舎」を立ち上げた。

○地域振興課、学校連携担当者、区民会議が三位一体の協力体制を作った。

○学校ごとのグループは、外からの支援に抵抗があるため、区内の各学校を回り、トツツプである校長と意思疎通を図り、活動を開始している。

○現時は数件の依頼があるが、人手不足である。

○区民会議は行政の意向も得ながら枠組みを作り、自らも取り組み、専門グループに引き継ぐのが役目と考える。

(青葉区民会議 あおば学校支援ネットワーク 竹本)

○あおば学校支援ネットワークは、区民会議とは切り離されているものの、区民会議委員が参加し

て活動している。

○場所がなく金もない、何も無い状態からスタートした。

○「地域力を学校へ」をスローガンに、コーディネーター養成講座を開催した。現在育成者を学校に紹介、10数名が張り付いている。

○授業やクラブ活動の支援、土曜塾の講師などを行っている。外出支援で子供がどんぐりのある秘密の場所を見つけたり、竹細工作りを支援したりしている。遊具のペンキ塗りや工作教室も行っている。

○学校支援は「学校は良い地域に存在する」といわれるが、「地域を良くすると学校も良くなる」との意気込みでまちづくりをしている。

(港北まちづくり区民の会 教育子育て部会 金子)

○区民会議が中心に、幼児を持った母親を対象に年4回のセミナーを開いている。キリンの親子をシンボルとして、暖かみを与えている。

○母親が参加しやすいように、子供の世話を民生委員や児童委員にお願いしている。このため、親子遊びや母親同士の交流の場となっている。

○講座内容は、専門家の話を聞く場を求めており、入園前の心構え、栄養士によるセミナー、自転車への子供の安全活動などを行っている。

○多い時は30名の親、子供を入れると70~80名が参加している。

保育は無料の案内が効果あると思う。ただし自転車の講座では少なかった。

○低学年の熱心な親が4人集まりスタートした。

○今後も母親の悩みが解決され、良くなるように心がけていきたい。

○資金集めには苦労している。

意見交換

(仕組みづくり)

○青葉区では、子育ては学校だけで行うのではなく、子育てサロンを週2回行っている。

○区民会議は地域の中に入るべきで、交流のお手伝いとして今後も講座を開いていく。

○まちの先生として、年4回程度開催し、長続きさせていきたい。

○地域力を高め、子供支援をしていきたい。

○教育委員会は1つで、3区合同で連絡しあい、提言したらどうか。

○自治会、防犯組織などは子供には関心が薄い。

(工夫)

○港北区子育て支援のNPO「びーのびーの」はお父さんの広場を開いている。

○30校の支援では、1/3がいわゆる遠足支援で、それも増加している。

(心構え)

○子供はまわりの人を見るので、意識した行動が必要である。

○未就学児を持つ母親は不安を持っており、叱ったりストイックになったり、いじめたりすることになる。周りから適切なアドバイスをして、受け入れやすい姿勢で臨んでいる。

○養成講座では、一人ひとりの背景が違い独立しており、個性を理解を教えている。

○支援にあたっては、2~3日前に綿密な打ち合わせをしている。

まとめ

学校支援は緒に就いたばかりであり、3区の活動グループ間で交流していく。

○第3部 まとめ報告 分科会の報告

◆第1分科会報告

小池 由美

(小池) 第1分科会は人数が多いのでA,B二つに分かれて話し合いました。

Bグループでは、沢山の意見が多く質疑応答としました。自転車に関する取り組み、ピオトープへの取り組みへの質疑応答。CO2削減への取り組みをこそ、区民会議として進めてはどうかという提案がありました。

Aグループでは、港北区の井口さんからの報告にあった「不法投棄」に関して、取り組み方に興味がありました。24名の委員を7つのブロックに分けて毎月報告をしながら実際に取り組んでいくその課程に質問がでました。ごみや不法投棄に関して各区がどのように取り組んでいるかについて話し合いました。ごみは自治会が取り扱っていたり、一人一人が取り組む所が多いのですね。

それに対して区民会議がどのように取り組めるのだろうか・・・ということで意見交換をしました。現実的には横浜市はごみ分別に関してプランを出しています。G30 や温暖化防止を見ながらどこを区民会議としてどのように提案していったら良いのかといったことに焦点を当てながら進める必要があるのです。区民会議が地域とどういう形で進んでいけばよいのか、ということへの示唆があったように思います。

行政への提案の出し方に関しても工夫が必要だということができました。一人の方の報告で、「具体的に自分のマンションで区民会議はこんなことをやっているのだという話の中から区民会議のほうへ引き込んだ。区民会議委員さんを増やして取り組みを始めた。このようなテーマによっては区民会議と一緒にしませんかということで、具体的に区民会議の活動に進んでいただいた」という事例報告もありました。このような形で区民会議として、現実にとどのように進めるのか、人数が今減っています。やる人達が何をしたいのか分からない。このような中で、具体的に取組んで、なおかつ提案をどのように出していけばいいのだろうかということの、少し一端が見えたのではないかと話し合いになりました。3区で違うことをしていますが、「同じテーマで話し合いの場が持てるようになったらいいね」ということも最後にありましたので、是非今日の3区交流が次につながるようになればいいかと思います。ご報告させて頂きました(拍手)

◆第2分科会報告

高橋 良寿

(高橋) 区民会議で、3区がそれぞれ地域に学校支援、どのような働きをしているかということで、教育活動の内容をそれぞれ発表していただきました。子供たちは、私たちの将来のとても大切な子供たちです。「高校生、生意気だから、そんなの知らねえや」、「あいつら勝手にやってるんだから、何か悪いことをしても声かけない」、そうではなくて、私たちの地域の教育力が非常に落ちていて、みんながある程度、無関心になっていることも非常に多いのです。「おまえ、だめだよ、そんなことやっちゃ!」と言うと、逆にやられてしまうから、みんな黙っていることもあるのですが、地域の教育力

を高めることによって、私たちの地域の子供は地域で育てるということをしたいというのが基本的にあります。

今、青葉区では、区民会議としてではないのですが、区民会議にいらっしゃる方の報告で「学校

の支援に入っています」と。学校支援は、それぞれの学校が30校ぐらいあるのですが、教科、例えば算数とか国語などにも学校の応援に行っています。個別教育、個別学級。個別学級というと、昔は特殊だとか何とか言ったのですが、今は個別学級ですね。そのようなクラスに入って、いろいろな先生方と協力して、教育活動をしているというご報告もございました。

それから港北区では、「港北まちづくり区民の会」というところで、家庭の教育力が下がっていますので、お母さん、またはお父さん方への教育支援、それから年間4回ぐらい講師を呼んでいろいろな所で、地域または区民の方に、地域力を上げるためにもいろいろと活動しているというご報告がございました。

緑区では、「緑遊学舎」というのがあって、それぞれ小学校に入り込んで、学校支援をしているということの報告をさせてもらいました。

それで、いろいろなことを発表いただきまして、最終的には、自分たちの学校支援についても、また教育部会についても、資質を上げていく。資質を上げていけば、いろいろなものを能率的にも効率的にも、いろいろな角度からもいろいろな問題や課題を解決することができるであろうということで、年間何回か分かりませんが、3区で教育部会、連絡会を持って、いろいろと勉強したらどうだろうかという意見が出ました。

このことがまたうまくいけば、どのようにしたらもう少し学校に入り込めるのか、どのようにしたらもっと楽しくできるのかなど、そのような問題が解決できますので、課題が出ましたので、また各区の会長を通じて、今後この問題について教育部会で話していきたいと思います。

以上簡単ですが、ご報告を終わりたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

（司会） ありがとうございました。

○ 閉 会

港北区まちづくり区民の会 会長 白井 保（当番幹事）

（白井） ご熱心な討議ができて、時間が20分間延長になりました。本当にありがとうございました。

今、第2分科会で報告がありましたように、私の記憶では、前回、青葉でしたときに、環境部会の皆さん方と港北区の環境の委員の方との交流が何回かあったという報告も受けております。ですからぜひ、定期的な交流会とは別に、それぞれ分野別の交流があってもいいのではないかと感じております。その辺はお互いに情報を交換しながら、さらに進めていけばいいのではないかと感じております。

本当に長時間にわたって熱心なご討議をいただき、ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。これで閉会いたします。（拍手）

（司会） ありがとうございました。これもちまして、第8回北部3区交流会を終了いたします。長時間にわたりご協力いただきまして、ありがとうございました。

港北まちづくり区民の会 広報委員会 編集
3区交流会実行委員会 編集協力
平成20年8月21日（木）